

# 令和5年度 専攻科学生募集要項

## 〔 専攻科案内類 〕 出願書類

推薦による 選抜	出願期間	令和4年5月11日(水)～13日(金)
	試験実施日	令和4年5月20日(金)(本校以外からの出願者のみ)
	合格発表日	令和4年5月26日(木)
	入学確約書提出期限	令和4年6月3日(金)
学力試験による 選抜	出願期間	令和4年6月8日(水)～10日(金)
	試験実施日	令和4年6月18日(土)
	合格発表日	令和4年6月23日(木)
	入学確約書提出期限	令和5年1月13日(金)
社会人 特別選抜	出願期間	令和4年11月16日(水)～18日(金)
	試験実施日	令和4年11月26日(土)
	合格発表日	令和4年12月1日(木)
	入学確約書提出期限	令和5年1月13日(金)

(注) 新型コロナウイルス感染拡大の影響により出願手続等に変更が生じる場合があります。  
その場合は本校ホームページ上でお知らせしますのでご確認ください。



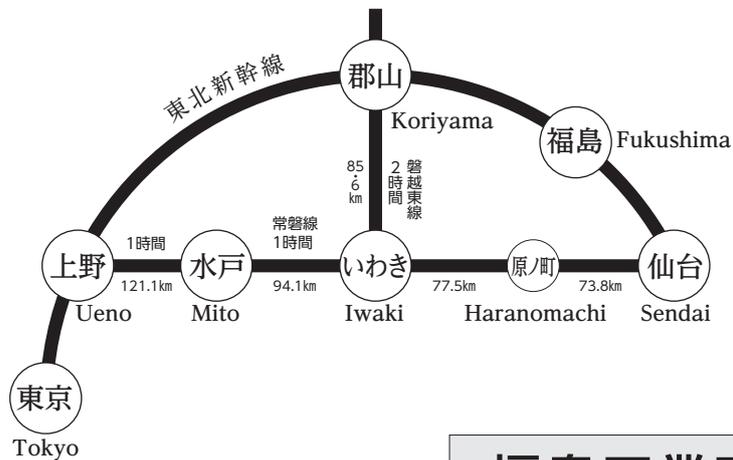
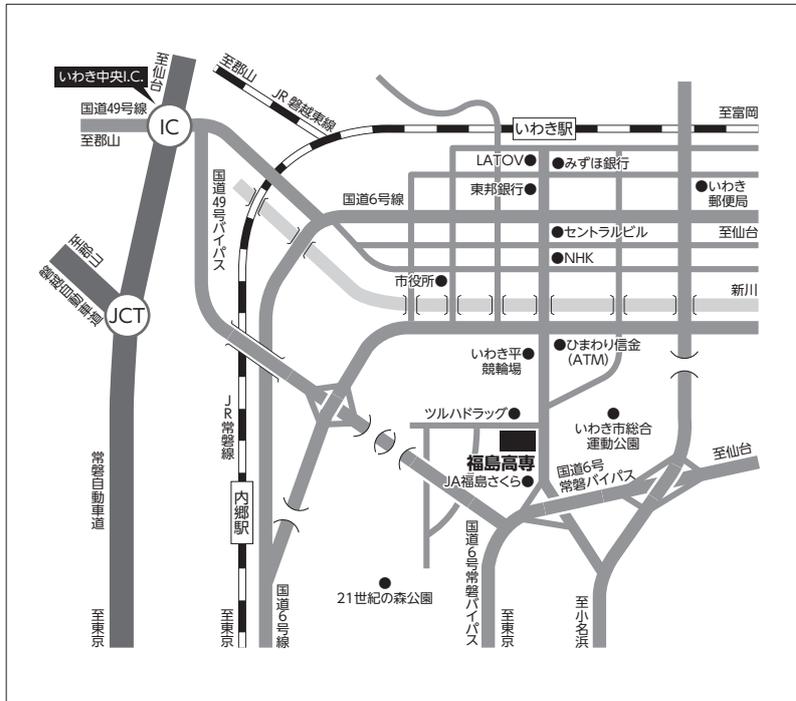
独立行政法人国立高等専門学校機構  
福島工業高等専門学校

〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30

TEL 0246-46-0721 (学生課入試係)

FAX 0246-46-0742 (学 生 課)

URL <https://www.fukushima-nct.ac.jp/>



**福島工業高等専門学校**  
 〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30

# 目 次

## 〔専攻科学生募集要項〕

I 入学者受入方針	1
II 募集人員	2
III 選抜方法	2
IV 高等専門学校長の推薦による選抜	2
V 学力試験による選抜	5
VI 社会人特別選抜	8
VII 個人情報の利用について	11
VIII 入学者選抜に関する合理的配慮の提供に関して	11
別表1 英語に関する「推薦選抜・社会人特別選抜」の出願基準と提出書類	12
別表2 英語に関する提出書類（学力試験選抜）	13
◎検定料を郵便局（ゆうちょ銀行）から振り込む場合について	14

## 〔専攻科案内〕

1 専攻科の目的	17
2 専攻及び入学定員	17
3 修業年限及び修了要件等	17
4 学位（学士）の取得	17
5 専攻科のディプロマポリシー（修了認定方針）	17
6 専攻科のカリキュラムポリシー（教育課程編成方針）	19
7 専攻科の科目構成	23
8 専攻科の入学及び進路状況	30
9 入学時に必要な諸経費（予定）	30
10 入学料・授業料の免除	31
(1) 入学料免除	31
(2) 授業料免除	31
11 奨学金制度	31
12 復興人材育成特別プログラム	31

## 〔出願書類〕

1 専攻科入学願書	2 写真票・受験票	3 推薦書(推薦選抜用)
4 承諾書(社会人特別選抜用)	5 調査書	
6 専攻科志望調査書(推薦選抜用・学力選抜用・社会人特別選抜用)		

# 令和5年度 専攻科学生募集要項

## I 入学者受入方針

アドミッションポリシー（入学者受入方針）は、本校の学習・教育目標を達成できる能力を持った人を入学させるための方針で、次のように定められています。

### 求める学生像

#### 全専攻

1. 専門の知識と基礎技術を有し、より高度な実践的かつ創造的技術を修得する意欲のある人（知識・技能）
2. 工学と経営の融合した分野に強い興味を持っている人（思考力・判断力・表現力）
3. 職業人としての倫理観を身につけ、専門分野で地域及び社会の発展に貢献したい人（主体性・協働）

#### 産業技術システム工学専攻

##### 【生産・情報システム工学コース】

1. 機械・電気の専門的な基礎力を有し、機械・情報を活用した創造的なモノづくりに興味を持っている人
2. 生産・情報分野の技術者としての素養を身につけ、豊かな社会の発展に貢献することに意欲を持っている人

##### 【エネルギーシステム工学コース】

1. 機械・電気の専門的な基礎力を有し、エネルギー分野に興味を持っている人
2. エネルギー分野の技術者としての素養を身につけ、豊かな社会の発展に貢献することに意欲を持っている人

##### 【化学・バイオ工学コース】

1. 応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野の学修と研究に打ち込み、先端技術に柔軟に対応できる知識とスキルを修得したい人
2. 工学を修める者としての確かな倫理観を持ち、工学の発展及び地域・社会の環境改善に貢献したい人

##### 【社会環境システム工学コース】

1. 建設・環境工学の研究に打ち込み、先端技術に柔軟に対応する知識とスキルを修得したい人
2. 確かな倫理観を持ち、工学の発展及び地域・社会の環境改善に貢献したい人

#### ビジネスコミュニケーション学専攻

##### 【ビジネスコミュニケーション学コース】

1. 現代社会への幅広い関心を持ち、社会科学の研究と、語学や情報、環境問題などの関連分野の学習に打ち込む意欲を持っている人
2. たしかなコミュニケーション能力と情報リテラシーを身につけ、地域社会と国際社会の垣根をこえてグローバルに活躍する意欲のある人

### 入学者選抜の基本方針

高等専門学校卒業程度の、各専門で必要な基礎的素養（工学系では、数学、各専門分野の基礎的知識・能力、ビジネス系では経営学分野の基礎的知識・能力）を有していることを評価します。

評価方法は、推薦による選抜では推薦書・調査書・志望調査書、学力試験による選抜では調査書・志望

調査書・学力試験，社会人特別選抜では調査書・志望調査書及び面接とします。

また，外国語による国際的コミュニケーション基礎能力を有していることを，英語の資格に関する証明書で評価します。

## II 募集人員

産業技術システム工学専攻	16名
ビジネスコミュニケーション学専攻	4名
計	20名

## III 選抜方法

入学者の選抜は，「高等専門学校長の推薦による選抜」，「学力試験による選抜」及び「社会人特別選抜」とし，次のとおり実施します。

選 抜 区 分	選 抜 試 験 日
高等専門学校長の推薦による選抜	令和4年5月20日(金)
学力試験による選抜	令和4年6月18日(土)
社会人特別選抜	令和4年11月26日(土)

## IV 高等専門学校長の推薦による選抜

### 1. 出願資格

以下の(1)と(2)の両方を満たす者としてします。ただし，同一学校の同一学科（多コース制をとっている高専については同一コース）から推薦できる出願者の上限を4名とします。

(1) 次の各号のいずれにも該当し，高等専門学校長の推薦を得た者

- ① 令和5年3月に高等専門学校卒業見込の者
- ② 本校に合格した場合，確実に入学する意思がある者
- ③ 4学年次全科目の評価を下記の「内申点換算基準」により換算した内申点の平均点（小数点第2位を切り捨て）が4.2以上の者又は4学年次の席次が学科内順位50%以内の者

優……5      良……4      可……3

(2) 英語において，別表1に挙げる各テスト・検定の証明書等を有し，出願基準を満たしている者

### 2. 出願手続

(1) 入学願書受付期間

- ① 期 間:令和4年5月11日(水)～5月13日(金)まで(郵送の場合は5月13日(金)16時必着)  
受付時間は，9時～12時，13時～16時までとします。

- ② 場 所:福島工業高等専門学校 学生課入試係  
〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30  
TEL:0246-46-0721 FAX:0246-46-0742

(2) 出願書類：出願に必要な書類は、次のとおりです。

①入学願書	本校所定の用紙に志願者が必要事項を記入したもの。
②受験票	本校所定の用紙に志願者が必要事項を記入したもの。
③写真票	本校所定の用紙に最近3か月以内に撮影した上半身，正面脱帽の写真(4.5cm×3.5cm)を貼付し，所定の事項を記入したもの。
④推薦書	本校所定の用紙により，在籍(出身)学校長が作成し，厳封したもの。
⑤調査書	本校所定の用紙により，在籍(出身)学校長が作成し，厳封したもの(高等学校から高等専門学校に編入学した者については，出身高等学校の調査書を添付すること)。
⑥志望調査書	本校所定の用紙に志願者が必要事項を記入したもの。
⑦英語の資格に関する証明書等	別表1に示す証明書等について，所有する全てのテスト・検定の書類(各テスト・検定の最高位のもの)の原本及び写しを提出してください。原本は確認後返却します。
⑧検定料	16,500円 本校所定の「検定料納入書」に必要事項を記入の上，金融機関から振込み，「検定料納入書」(高専提出用)を出願書類に同封してください。なお，ATM(現金自動預払機)，携帯電話及びパソコン等からの振込みはできませんので，ご注意ください(郵便局およびゆうちょ銀行から振り込む場合は14頁「検定料を郵便局(ゆうちょ銀行)から振り込む場合について」をご覧ください)。 また，既納の検定料は以下の場合以外，いかなる理由があっても返還しません。 ・検定料を納付したが出願しなかった又は出願が受理されなかった場合 ・検定料を誤って二重に払い込んだ場合
⑨返信用封筒(受験票返送用)	志願者の郵便番号・住所・氏名等を記入し344円切手(速達郵便分)を貼付したもの。ただし，出願書類等を持参する場合は不要です。
⑩その他	現に日本国に在住している外国人は，市区町村長の発行する「外国人登録原票記載事項証明書」を提出してください。

(3) 出願に関する注意事項

- ① 願書提出後は，記載事項の変更は認めません。なお，受理した出願書類は，返還しません。
- ② 出願書類の記載事項と相違した事実が判明した場合は，入学許可後であっても入学を取り消すことがあります。
- ③ 郵送する場合は，「簡易書留郵便」とし，封筒の表に「専攻科出願書類在中」と朱書してください。

### 3. 選抜の方法

入学者の選抜は，在籍学校長から提出された推薦書，調査書，志望調査書及び英語の資格を総合判定して行います。ただし，本校以外の学校からの出願者に対しては面接を実施します。

### 4. 本校以外の学校からの出願者に対する面接試験の日時及び場所

期 日	試験区分	時 間	場 所
令和4年5月20日(金)	面接	9:15~	福島工業高等専門学校 (いわき市平上荒川字長尾30)

※面接は，1人20分程度です。

## 5. 受験上の注意事項

- (1) 面接当日は、**8時40分**までに受付を済ませてください。**9時**から全体説明を行いますので、時間までに指定された受験者控室に入室してください。
- (2) 交通機関の混乱等、不測の事態に備え、受験者はあらかじめ十分な対策を講じておいてください。
- (3) 受験票及び筆記用具は、必ず持参してください。

## 6. 合格者の発表

令和4年5月26日(木)午前10時に合格者の受験番号を本校に掲示するとともに、学校長あてに可否を文書で通知し、あわせて合格者には、「合格通知書」を送付します。また、本校のホームページにも掲載します。

なお、電話等による可否の照会には、応じられませんのでご注意ください。

## 7. 「高等専門学校長の推薦による選抜」に合格しなかった者の取扱い

「高等専門学校長の推薦による選抜」の結果、合格とならなかった者で「学力試験による選抜」の受験を希望する者は、「学力試験による選抜」に定めるところにより、**再度出願の手続き**を行ってください。

ただし、「調査書」及び「外国人登録原票記載事項証明書」の再提出は要しませんが、**検定料は必要**です。

## 8. 入学確約書の提出

合格通知を受けた者は、「入学確約書」を令和4年6月3日(金)17時必着で本校学生課入試係へ提出してください。

なお、期限までに「入学確約書」を提出しない者は、入学の意思がないものとして取り扱います。

## 9. 入学手続等

入学手続日、入学に必要な書類等については、「入学確約書」提出者に、後日通知します。

## V 学力試験による選抜

### 1. 出願資格

以下の(1)と(2)の両方を満たす者とします。

(1) 次の各号のいずれかに該当する者

- ① 高等専門学校を卒業した者及び令和5年3月に卒業見込の者
- ② 短期大学を卒業した者及び令和5年3月に卒業見込の者
- ③ 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第132条の規定により大学に編入することができる者
- ④ 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む）の専攻科の課程を修了した者のうち、学校教育法第58条の2（同法第70条第1項及び第82条において準用する場合を含む）の規定により大学に編入学することができる者
- ⑤ 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
- ⑥ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
- ⑦ 我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ⑧ その他本校専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者  
（注） 審査によって認定された科目及び専攻科教育課程表の科目だけでは専攻科の修了要件を満たさない場合は、不足の科目の補講等を受講し、学力試験を受け、定められた基準で合格しなければなりません。

(2) 英語において、別表2に挙げる各テスト・検定の証明書等を有している者

### 2. 出願手続

(1) 入学願書受付期間

- ① 期 間：令和4年6月8日(水)～6月10日(金)まで（郵送の場合は6月10日(金)16時必着）  
受付時間は、9時～12時、13時～16時までとします。
- ② 場 所：福島工業高等専門学校 学生課入試係  
〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30  
TEL：0246-46-0721 FAX：0246-46-0742

(2) 出願書類：出願に必要な書類は、次のとおりです。

①入学願書	本校所定の用紙に志願者が必要事項を記入したもの。
②受験票	本校所定の用紙に志願者が必要事項を記入したもの。
③写真票	本校所定の用紙に最近3カ月以内に撮影した上半身、正面脱帽の写真(4.5cm×3.5cm)を貼付し、所定の事項を記入したもの。
④調査書	本校所定の用紙により、在籍(出身)学校長が作成し、厳封したもの。
⑤志望調査書	本校所定の用紙に志願者が必要事項を記入したもの。
⑥英語の資格に関する証明書等	別表2に示す証明書等について、所有する全てのテスト・検定の書類(各テスト・検定の最高位のもの)の原本及び写しを提出してください。原本は確認後返却します。

⑦検 定 料	16,500円 本校所定の「検定料納入書」に必要事項を記入の上、金融機関から振込み、「検定料納入書」（高専提出用）を出願書類に同封してください。なお、ATM（現金自動預払機）、携帯電話及びパソコン等からの振込みはできませんので、ご注意ください（郵便局およびゆうちょ銀行から振り込む場合は14頁「検定料を郵便局（ゆうちょ銀行）から振り込む場合について」をご覧ください）。 また、既納の検定料は以下の場合以外、いかなる理由があっても返還しません。 ・検定料を納付したが出願しなかった又は出願が受理されなかった場合 ・検定料を誤って二重に払い込んだ場合
⑧返信用封筒 （受験票返送用）	志願者の郵便番号・住所・氏名等を記入し344円切手（速達郵便分）を貼付したものだし、出願書類等を持参する場合は不要です。
⑨その他	現に日本国に在住している外国人は、市区町村長の発行する「外国人登録原票記載事項証明書」を提出してください。

(3) 出願に関する注意事項

- ① 願書提出後は、記載事項の変更は認めません。なお、受理した出願書類は、返還しません。
- ② 出願書類の記載事項と相違した事実が判明した場合は、入学許可後であっても入学を取り消すことがあります。
- ③ 郵送する場合は、「簡易書留郵便」とし、封筒の表に「専攻科出願書類在中」と朱書してください。

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、学力試験、出身学校長から提出された調査書、志望調査書及び英語の資格（提出された書類の点数等を得点に換算し、これらが複数ある場合には、最も高い得点を採用し、学力点とみなす）を総合判定して行います。ただし、本校以外の学校からの出願者に対しては学力試験に加えて面接を実施します。

(1) 学力試験・面接等の日時及び場所 令和4年6月18日(土)

科目等	時間	場 所
数学または小論文	9:00～10:30	福島工業高等専門学校 (いわき市平上荒川字長尾30)
専門科目	10:50～12:50	
面接に関する説明	14:10～14:20	
面接	14:20～	

※面接は、1人20分程度です。

(2) 学力試験科目及び出題範囲

専攻名	科目	出 題 範 囲	備 考
産業技術システム工学専攻	数 学	基礎数学、線形代数、微分積分、 応用数学（①確率・統計、②ベクトル解析、 2科目のうちから1科目選択）	必 須
	専門科目	①工業力学、②材料力学、③水力学、④電気磁気学、 ⑤電子回路、⑥情報工学、 ⑦物理化学・分析化学・無機化学、 ⑧有機化学・生化学、⑨構造力学、⑩環境工学、 ⑪土木計画学	左欄の11科目のうち 2科目選択

ビジネスコミュニケーション学専攻	小論文	社会に関するテーマ 小論文（1200字程度）	必須
	専門科目	①経営学，②基礎会計学， ③数学（微分積分，確率・統計）	左欄の3科目のうち 1科目選択

#### 4. 受験上の注意事項

- (1) 試験当日は、8時40分までに受付を済ませてください。8時45分から全体説明を行いますので、時間までに指定された受験者控室に入室してください。
- (2) 交通機関の混乱等、不測の事態に備え、受験者はあらかじめ十分な対策を講じておいてください。
- (3) 受験票及び筆記用具は、必ず持参してください。

#### 5. 合格者の発表

令和4年6月23日(木)午前10時に合格者の受験番号を本校に掲示するとともに、合格者には「合格通知書」を送付します。また、本校のホームページにも掲載します。

なお、電話等による合否の照会には、応じられませんのでご注意ください。

#### 6. 入学確約書の提出

合格通知を受けた者は、「入学確約書」を下記の期限までに本校学生課入試係に提出してください。なお、期限までに「入学確約書」を提出しない者は、入学の意思がないものとして取り扱います。

入学確約書提出期限 令和5年1月13日(金)17時必着

#### 7. 入学手続等

入学手続日、入学に必要な書類等については、「入学確約書」提出者に、後日通知します。

## Ⅵ 社会人特別選抜

### 1. 出願資格

以下の(1)と(2)の両方を満たす者とします。

(1) 次の各号のいずれかに該当する者で、かつ出願時において企業等の在職経験が1年以上ある者

- ① 高等専門学校を卒業した者
- ② 短期大学を卒業した者
- ③ 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第132条の規定により大学に編入することができる者
- ④ 高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む)の専攻科の課程を修了した者のうち、学校教育法第58条の2(同法第70条第1項及び第82条において準用する場合を含む)の規定により大学に編入学することができる者
- ⑤ 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
- ⑥ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
- ⑦ 我が国において、外国の短期大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ⑧ その他本校専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者  
(注) 審査によって認定された科目及び専攻科教育課程表の科目だけでは専攻科の修了要件を満たさない場合は、不足の科目の補講等を受講し、学力試験を受け、定められた基準で合格しなければなりません。

(2) 英語において、別表1に挙げる各テスト・検定の証明書等を有し、出願基準を満たしている者

### 2. 出願手続

(1) 入学願書受付期間

①期 間:令和4年11月16日(水)～18日(金)まで(郵送の場合は、11月18日(金)の16時必着)  
受付時間は、9時～12時、13時～16時までとします。

②場 所:福島工業高等専門学校 学生課入試係  
〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30  
TEL:0246-46-0721 FAX:0246-46-0742

(2) 出願書類: 出願に必要な書類は、次のとおりです。

①入学願書	本校所定の用紙に志願者が必要事項を記入したもの。
②受験票	本校所定の用紙に志願者が必要事項を記入したもの。
③写真票	本校所定の用紙に最近3カ月以内に撮影した上半身、正面脱帽の写真(4.5cm×3.5cm)を貼付し、所定の事項を記入したもの。
④承諾書又は 在職経験に関する 証明書等	企業等に在職のまま出願を希望する者は、本校所定の用紙により、所属長が作成した承諾書を提出してください。それ以外の者は、企業等の在職経験が1年以上あることを証明する書類を提出してください(様式は自由)。
⑤調査書	本校所定の用紙により、出身学校長が作成し、厳封したもの。
⑥志望調査書	本校所定の用紙に志願者が必要事項を記入したもの。
⑦英語の資格に 関する証明書等	別表1に示す証明書等について、所有する全てのテスト・検定の書類 (各テスト・検定の最高位のもの)の原本及び写しを提出してください。原本は確認後返却します。

⑧検 定 料	16,500円 本校所定の「検定料納入書」に必要事項を記入の上、金融機関から振込み、「検定料納入書」（高専提出用）を出願書類に同封してください。なお、ATM（現金自動預払機）、携帯電話及びパソコン等からの振込みはできませんので、ご注意ください（郵便局およびゆうちょ銀行から振り込む場合は14頁「検定料を郵便局（ゆうちょ銀行）から振り込む場合について」をご覧ください）。 また、既納の検定料は以下の場合以外、いかなる理由があっても返還しません。 ・検定料を納付したが出願しなかった又は出願が受理されなかった場合 ・検定料を誤って二重に払い込んだ場合
⑨返信用封筒 （受験票返送用）	志願者の郵便番号・住所・氏名等を記入し344円切手（速達郵便分）を貼付したもの。ただし、出願書類等を持参する場合は不要です。
⑩その他	現に日本国に在住している外国人は、市区町村長の発行する「外国人登録原票記載事項証明書」を提出してください。

### (3) 出願に関する注意事項

- ① 願書提出後は、記載事項の変更は認めません。なお、受理した出願書類は、返還しません。
- ② 出願書類の記載事項と相違した事実が判明した場合は、入学許可後であっても入学を取り消すことがあります。
- ③ 郵送する場合は、「簡易書留郵便」とし、封筒の表に「専攻科出願書類在中」と朱書してください。

## 3. 選抜の方法

入学者の選抜は、調査書、志望調査書及び英語の資格並びに面接（専門科目に関する口頭試問を含む）の結果を総合判定して行います。

## 4. 面接試験の日時及び場所

期 日	試験区分	時 間	場 所
令和4年11月26日（土）	面 接 （口頭試問を含む）	9:15～	福島工業高等専門学校 （いわき市平上荒川字長尾30）

※面接は、1人30分程度です。

## 5. 受験上の注意事項

- (1) 面接当日は、8時40分までに受付を済ませてください。9時から全体説明を行いますので、時間までに指定された受験者控室に入室してください。
- (2) 交通機関の混乱等、不測の事態に備え、受験者はあらかじめ十分な対策を講じておいてください。
- (3) 受験票及び筆記用具は、必ず持参してください。

## 6. 合格者の発表

令和4年12月1日（木）午前10時に合格者の受験番号を本校に掲示するとともに、合格者には「合格通知書」を送付します。また、本校のホームページにも掲載します。

なお、電話等による合否の照会には、応じられませんのでご注意ください。

## 7. 入学確約書の提出

合格通知を受けた者は、「入学確約書」を下記の期限までに本校学生課入試係に提出してください。なお、期限までに「入学確約書」を提出しない者は、入学の意思がないものとして取り扱います。

入学確約書提出期限 令和5年1月13日（金）17時必着

## 8. 入学手続等

入学手続日、入学に必要な書類等については、「入学確約書」提出者に、後日通知します。

## 9. 長期履修学生制度

本専攻科では、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを願った者については、審査の上許可することがあります。

この制度の適用者は「長期履修学生」といい、当該学生の授業料支払総額は標準修業年限による修了者と同じです。

この制度の詳細については、本校学生課入試係にお問い合わせください。

## Ⅶ 個人情報の利用について

入学志願者から提出された入学願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者選抜の資料として利用するとともに、次の目的等にも利用しますのでご了承ください。

- (1) 入学後の教育・指導
- (2) 入学料、授業料の免除申請の審査
- (3) 奨学金申請の審査
- (4) 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

## Ⅷ 入学者選抜に関する合理的配慮の提供に関して

福島工業高等専門学校では、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」及び、「独立行政法人国立高等専門学校機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」に則り、障害等による支援ニーズのある学生に対して、受験上または修学上の合理的配慮の提供を行っています。

入学者選抜において障害等を理由とした合理的配慮の提供を希望する者は、早めに福島高専学生課入試係までご相談ください。なお、合理的配慮の提供には準備に時間がかかることもあるため、入学願書提出期限直前での相談及び申請では準備期間が短くなり、希望する合理的配慮を受けられず、安心して試験を受けられなくなる可能性があることに注意してください。

必要に応じて、学生、学生の保護者及び、在籍する学校関係者に対し、相談された内容について質問する場合や合理的配慮提供の根拠となる資料の提出を求める場合がありますが、合理的配慮に関する申請及び問い合わせ内容並びに、事前相談を受けられた場合でも入学者選抜の合否判定には一切影響しません。

(お願い)

入学後に修学上の合理的配慮が必要な場合には、合理的配慮提供のための準備を十分に行うために、出願前の可能な限り早い段階で「事前相談」を受けられることをお勧めします。入試後、または入学後に合理的配慮に関して初めて申請すると、修学に必要な支援を十分に受けられなくなる可能性があります。なお、事前相談を受けられても、入学者選抜の合否判定には一切影響ありません。

別表1

福島工業高等専門学校 専攻科入学者選抜

英語に関する「推薦選抜・社会人特別選抜」の出願基準と提出書類

下表に示すスコア・級について、所有する全てのテスト・検定の書類（各テスト・検定の最高位のもの）の原本及び写しを提出してください。原本は確認後返却します。

テスト・検定の種別		出願基準 (推薦・社会人用)	提出書類
TOEIC	TOEIC 公開テスト	産業技術システム工学専攻 300 点以上 ビジネスコミュニケーション学専攻 500 点以上	公式認定証 (Official Score Certificate)
	福島高専で実施した TOEIC-IP	産業技術システム工学専攻 300 点以上 ビジネスコミュニケーション学専攻 500 点以上	個人成績表 (Score Report)
TOEFL	TOEFL PBT (Paper-Based Test)	産業技術システム工学専攻 400 点以上 ビジネスコミュニケーション学専攻 470 点以上	公式スコア表 (Official Score Report) もしくは 受験者用控えスコア表 (Examinee Score Record)
	TOEFL IBT (Internet-Based Test)	産業技術システム工学専攻 32 点以上 ビジネスコミュニケーション学専攻 52 点以上	
実用英語技能検定		産業技術システム工学専攻 準 2 級以上 ビジネスコミュニケーション学専攻 2 級以上	合格証明書

\*TOEIC・TOEFL については、各選抜試験実施日からさかのぼって 2 年を過ぎたものについては無効とします。

\*出願後のスコアや級の差し替えは認めません。

別表2

福島工業高等専門学校 専攻科入学者選抜

英語に関する提出書類（学力試験選抜）

下表に示すスコア・級について、所有する全てのテスト・検定の書類（各テスト・検定の最高位のもの）の原本及び写しを提出してください。原本は確認後返却します。

テスト・検定の種別		提出書類
TOEIC	TOEIC 公開テスト	公式認定証 (Official Score Certificate)
	福島高専で実施した TOEIC-IP	個人成績表 (Score Report)
TOEFL	TOEFL PBT (Paper-Based Test)	公式スコア表 (Official Score Report) もしくは 受験者用控えスコア表 (Examinee Score Record)
	TOEFL IBT (Internet-Based Test)	
実用英語技能検定		合格証明書

\*TOEIC・TOEFL については、各選抜試験実施日からさかのぼって2年を過ぎたものについては無効とします。

\*出願後のスコアや級の差し替えは認めません。

## ◎検定料を郵便局(ゆうちょ銀行)から振り込む場合について

入学検定料を郵便局(ゆうちょ銀行)から振り込む場合は次のような条件がありますので、ご利用の際はご注意ください。

- (1) ゆうちょ銀行から検定料を振り込む場合は現金での振り込みはできず、口座からの振り込みのみ可能となっていますのでご注意ください。ご利用の際は、「通帳とお届け印」または「キャッシュカード」が必要となります。
- (2) ゆうちょ銀行から振り込む場合は、募集要項に添付されている本校所定の振込依頼書は使用できません。窓口で、ゆうちょ銀行専用の振込依頼書を受け取り、必要事項を記入して窓口から振り込みください。振り込みの際は、振り込み先を確認しますので、本校所定の振込依頼書も持参ください。なお、振り込み手数料はご負担ください。
- (3) 振り込み後は、窓口で「振替払出請求書預金口座振替による振込受付書」(以下、「振込受付書」という)を受領してください。また、出願の際にはこの振込受付書を出願書類と同封してください。なお、振込受付書はコピーを取り、コピーは大切に保管してください。
- (4) 検定料の振り込みは、ゆうちょ銀行ATM(現金自動預払機)からは行わないでください。

### ゆうちょ銀行専用の振込依頼書(サンプル)

8000034 振込依頼書(兼振替払出請求書)[電信扱い]		「ゆうちょ銀行」以外の銀行宛	
※本券からはみ出さないようにボールペンではっきりとご記入ください。 ※印欄は、該当の項目にレ印をつけてください。 ▲ 組合口座の場合は券面に記載のある方のみご記入ください。			
ご依頼日 年 月 日		※料金は、振込金とは別に、払出口座の預金からいただきます。 ※お受取人負担のお取扱いはできません。	
金融機関名 <input type="checkbox"/> 銀行 <input type="checkbox"/> 信金 <input type="checkbox"/> 信組 <input type="checkbox"/> 農協 <input type="checkbox"/> その他		支店名 支店	
お受取人 預金種目 <input type="checkbox"/> 1 普通(国庫) <input type="checkbox"/> 2 当座 <input type="checkbox"/> 口座番号 <input type="checkbox"/> 4 貯蓄 <input type="checkbox"/> 9 その他		金額 <input type="text"/>	
フリガナ		振込金額 5万円未満 5万円以上	
おなまえ 様		料金(消費税込) 648円 864円	
おとところ 郵便番号 ( - )			
フリガナ			
おなまえ 様			
ご依頼人 日中ご連絡先電話番号		通知番号	
※お受取人様へ通知を希望される番号(最大10桁)がある場合(お名前欄の横に数字を入れる欄)に左記でご記入ください。			
払出口座番号		お届け印	
おとところ 郵便番号 ( - ) ※口座名義人がご依頼人の場合、ご記入は不要です。			
おなまえ 様			
科目	取扱年月日	取扱店舗	受払課業
請求種別	取扱店番号	処理番号	代行店番号
払出口座番号	お受取人おなまえ	振込先	様
	振込金額	振込料金	様
	合計金額	円 払出明細番号	円(消費税等を含む。)
<input type="checkbox"/> 振込のみ <input type="checkbox"/> 振込と併せて <input type="checkbox"/> 振込と併せて			
<input type="checkbox"/> 本・代・使( ) <input type="checkbox"/> 本・代・法 <input type="checkbox"/> 振 <input type="checkbox"/> 振 ( ) <input type="checkbox"/> 任・聯 寄			
日付欄: 0CR用   取扱店舗: 福島県 福島市一丁目貯金業務センター   7566002715   ゆうちょ銀行			

- ・ご依頼人には受験者の氏名を記載してください。
- ・福島高専には「お客様控え」を提出してください。

# 専攻科案内

## 1 専攻科の目的

本校の専攻科は、福島工業高等専門学校における5年一貫教育という特徴を生かした、教育課程のうえに、精深な程度において、学際的領域や広い視野に目を向けた高度な専門的学術を教授研究し、もって豊かな教養と人格を備え、広く産業の発展に寄与する人材を育成します。

## 2 専攻及び入学定員

産業技術システム工学専攻	16名
ビジネスコミュニケーション学専攻	4名
計	20名

## 3 修業年限及び修了要件等

- (1) 専攻科の修了に必要な単位数は、一般科目6単位以上、専門関連科目18単位以上、専門科目32単位以上、及びこれらの科目の合計で62単位以上とする。
- (2) 教育課程表に定める必修科目をすべて修得していること。
- (3) 教育課程表に定める選択必修科目は、所定の科目数以上を修得していること。
- (4) 学会等で特別研究に関する内容を発表していること。
- (5) 英語に関しては、「現代英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の内から2科目以上修得していること。

## 4 学位（学士）の取得

高等専門学校卒業生等が本校の専攻科で2年以上在学して所定の62単位以上を修得し、大学改革支援・学位授与機構の審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力を有すると認められた場合は、学士の学位が取得できます。ただし、専攻科入学前の取得科目により、大学改革支援・学位授与機構が定める専攻に係わる授業科目・単位が不足するときには、他の高等教育機関等でそれらを取得する必要があります。

## 5 専攻科のディプロマポリシー（修了認定方針）

本校では、以下の「養成する人材像」に示す人材を育成する教育内容を学習し、「修了時に身につけるべき資質能力」を身に付け、所定の単位を修得し、修了要件を満たした学生に対して修了を認定します。

○養成する人材像

### 【工学系学科と産業技術システム工学専攻】

- ①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア
- ②イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア
- ③モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア
- ④グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア

### 【ビジネス系学科とビジネスコミュニケーション学専攻】

- ①自己実現ができるビジネス・スペシャリスト
- ②グローバルなコミュニケーション能力を有するビジネス・スペシャリスト
- ③論理的思考に優れたビジネス・スペシャリスト

④長期的な視野をもち、持続可能な社会の実現に貢献するビジネス・スペシャリスト

○専攻科課程の各専攻で養成する人材像

#### 【産業技術システム工学専攻】

本科の機械システム工学科，電気電子システム工学科，化学・バイオ工学科，都市システム工学科のそれぞれの専門分野の基礎学力を充実させ，その応用性や専門性を深める。

また復興人材育成特別プログラムにより地域復興に活躍できる人材を育成する。  
本専攻は次の4つのコースから成る。

#### ＜生産・情報システム工学コース＞

機械系・電気系の材料工学分野及び機械加工系，電子・情報工学系を融合した教育・研究を行う。機械設計関連，システム制御関連，電子物性関連及び情報関連分野に関するより高度で応用性の高い専門科目を学び生産・情報分野で活躍できる人材を育成する。

このコースの教育研究は復興人材育成特別プログラムのロボット技術，メカトロニクス，防災通信等と密接に関係しており，これらの分野で地域の復興に活躍できる人材も育成する。

#### ＜エネルギーシステム工学コース＞

機械系・電気系のエネルギー関連分野の教育・研究を行う。エネルギー分野に関するより高度で応用性の高い専門科目を学び，機械・電気関連のエネルギー分野で活躍できる人材を育成する。

このコースの教育研究は復興人材育成特別プログラムの再生可能エネルギー分野，原子力安全工学分野にも密接に関係しており，エネルギー関連産業で活躍できる人材も育成する。

#### ＜化学・バイオ工学コース＞

応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野の教育・研究を行う。化学・バイオ工学科（準学士課程）専門分野の基礎学力をさらに充実させうえて，その専門性を高める。さらに，現代の応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野における先端技術やその動向に柔軟に対応できる人材を育成する。

このコースの教育研究は，復興人材育成特別プログラムの放射線計測関連分野に関係しており，廃炉技術の重要な一分野である放射線及び放射性物質の取扱いの分野で活躍できる人材も育成する。

#### ＜社会環境システム工学コース＞

建設・環境系の教育・研究を行う。土木工学と環境工学に関する専門知識を修得し，さらに関連科目の履修を通して複眼的視野を深める。これらを通して日々進化する先端技術に柔軟に対応しつつ，環境に配慮することのできる建設技術を身につけた人材を育成する。

このコースの教育研究は，復興人材育成特別プログラムの減災工学分野に関係しており，まちを災害から守る技術分野や災害復興に取り組む分野で活躍できる人材も育成する。

#### 【ビジネスコミュニケーション学専攻】

準学士課程のビジネスコミュニケーション学科の専門的な基礎学力を充実させ，その応用性や専門性を深めることで，地域社会の発展に貢献するとともに，グローバルに活躍できる人材を育成する。本専攻は次の1つのコースから成る。

#### ＜ビジネスコミュニケーション学コース＞

準学士課程のビジネスコミュニケーション学科で習得した社会学系知識の応用力を育み，さらに専門性を深める科目を履修する。くわえて，工学系とビジネス系のシナジー効果を期待できる科目を履修することにより，工学の基礎知識と国際社会で通用するビジネスコミュニケーション能力を併せ持つ人材を育成する。

このコースの教育研究は復興人材育成特別プログラムの各分野に関係しており、社会の持続可能性に配慮しながら地域社会の発展に貢献するとともに、たしかなコミュニケーション能力と国際感覚をもち、地域社会と国際社会の垣根をこえてグローバルに活躍できる人材も育成する。

○専攻科修了時に身に付けるべき学力や資質・能力

1. 地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力
2. 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
3. モノづくりやデザイン能力を有志、工学系科目ービジネスの協働（シナジー）効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力
4. 国際社会に必要な情報収集能力およびコミュニケーション能力
5. 福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力

## 6 専攻科のカリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

本校では、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を身につけるため、次のような教育課程の編成方針、および成績評価基準に基づいて教育を実施します。

○編成方針

- (1) 準学士課程（本科）においては、くさび型※の構成であり、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」を身につけるための必修科目、選択科目を適切に設定した、5年一貫の体系的な教育課程を編成する。

専攻科においては、準学士課程の内容からの接続、発展を考慮した、より高度な教育課程を編成する。

※くさび型の教育課程：低学年次においては一般科目を多く配置し、学年の進行に伴い専門科目を多く配置する教育課程

- (2) 「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を深化させるため、高学年、および専攻科においては、モノづくり、校外での体験、問題解決能力の養成等に関する科目を開設する。
- (3) 教育課程を編成するに当たっては、全学年で基本的な知識・技能の修得、それらを応用し思考、判断する能力の修得、それらを自発的に学習できる態度・志向性を修得できるように配慮して、科目配置や科目毎の授業内容や授業計画を設計しシラバスに記載し、シラバスにしたがい教育を実施する。

○成績評価基準

- (1) 科目の成績評価は、定期試験の成績および平素の成績をもとに行う。評価方法はシラバスに記載し、記載された評価方法に基づいて公平に成績評価を実施する。
- (2) 講義科目では主に定期試験等の筆記試験により、演習科目では筆記試験やレポート等を総合的に勘案し、さらに、実験・実習科目ではレポートや授業態度等により評価する。
- (3) 科目の成績評価結果は100点法で行い、60点以上を合格とする。
- (4) 各科目について、成績評価が60点以上の場合は単位の修得を認定する。

○専攻科課程 各専攻、コースごとの教育課程編成方針

ディプロマポリシーで掲げた能力を育成するために、各専攻各コースでは、以下の科目群を系統的に編成する。

## 【産業技術システム工学専攻】

### ＜生産・情報システム工学コース＞

- (1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を習得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を修得できるように、機械工学や電気電子工学を基盤として、生産・制御・情報・通信等に関連した専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を修得できるように、産業技術システム工学に関連する他分野の科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探求する能力を修得できるように、システムデザインや特別研究等の課題設定とその解決能力や応用力、チームワーク力といった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力を修得できるように、システム工学実験等の技術習得に関する実技科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (6) 情報技術を活用した、国際社会に必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。

### ＜エネルギーシステム工学コース＞

- (1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を習得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を修得できるように、機械工学や電気電子工学を基盤として、流体・熱・電力・エネルギー等に関連した専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を修得できるように、産業技術システム工学に関連する他分野の科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探求する能力を修得できるように、システムデザインや特別研究等の課題設定とその解決能力や応用力、チームワーク力といった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力を修得できるように、システム工学実験等の技術習得に関する実技科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (6) 情報技術を活用した、国際社会に必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。

### ＜化学・バイオ工学コース＞

- (1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。

- (2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を習得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を修得できるように、応用化学や生物工学を基盤とした専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を修得できるように、産業技術システム工学に関連する他分野の科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探求する能力を修得できるように、システムデザインや特別研究等の課題設定とその解決能力や応用力、チームワーク力といった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力を修得できるように、システム工学実験等の技術習得に関する実技科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (6) 情報技術を活用した、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。

#### <社会環境システム工学コース>

- (1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を習得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を修得できるように、土木工学や環境工学を基盤とした専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を修得できるように、産業技術システム工学に関連する他分野の科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探求する能力を修得できるように、システムデザインや特別研究等の課題設定とその解決能力や応用力、チームワーク力といった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力を修得できるように、システム工学実験等の技術習得に関する実技科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (6) 情報技術を活用した、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。

#### 【ビジネスコミュニケーション学専攻】

##### <ビジネスコミュニケーション学コース>

- (1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を習得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を修得できるように、経営学を基盤とした専門科目を設け、講義や演習を主とした学修を実施する。

- (3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を修得できるように、経営学に関連する他分野の科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探求する能力を修得できるように、システムデザインや特別研究等の課題設定とその解決能力や応用力、チームワーク力といった総合的能力を養うための科目を設け、実習を主とした学修を実施する。
- (5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力を修得できるように、経営学演習等を設け、演習を主とした学修を実施する。
- (6) 情報技術を活用した、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実習を主とした学修を実施する。

## 7 専攻科の科目構成

生産情報システム工学コース(機械工学) 一般科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	SDGs探究	2	2				専攻外	
	現代英語 I	2	2				専攻外	
選択	日本文化論	2	2				専攻外	
	現代英語 II	2		2			専攻外	
	現代英語 III	2			2		専攻外	
	グローバル研修	1	(1)				専攻外	
開設単位計		11	8(1)		2(1)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

生産情報システム工学コース(機械工学) 専門関連科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	システムデザイン	2	2				専門	
	産業財産権	2	2				関連	
	応用解析学	2	2				関連	
	産業技術論	2		2			関連	
	材料科学	2			2		関連	
	製品開発論	2				2	関連	
	産業安全工学総論	2				2	関連 復興人材育成特別科目	
選択	力学総論	2	2				関連	
	現代化学	2	2				関連	
	環境保全工学	2	2				関連 復興人材育成特別科目	
	応用電子制御工学	2	2				関連	
	数理計画論	2		2			関連	
	科学技術史	2			2		関連	
	減災工学	2			2		関連 復興人材育成特別科目	
	都市経済学	2				2	関連 復興人材育成特別科目	
	システム論	2				2	関連	
	電力流通工学	2				2	関連 復興人材育成特別科目	
	電子物性工学	2				2	関連	
	応用電磁気学	2				2	関連	
	応用半導体工学	2				2	関連	
開設単位計		40	18		22			

生産情報システム工学コース(機械工学) 専門科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	特別研究 I	6	6					専門
	特別研究 II	10			10			専門
	生産管理論	2	2				専門	
	品質工学	2	2				専門	
	情報科学論	2		2			専門	
	応用メカトロニクス	2			2		専門 復興人材育成特別科目	
	制御システム工学	2			2		専門	
	産業応用情報工学	2			2		専門	
	応用塑性加工工学	2			2		専門	
	熱流体工学	2				2	専門	
選択	インターンシップA	2	(2)				関連	
	インターンシップB	2	(2)				関連	
	インターンシップC	2	(2)				関連	
開設単位計		38	12(6)		20(6)			
開設単位合計		89	38(7)		44(7)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

生産情報システム工学コース(電気電子工学) 一般科目

必修 選択 の別	授業科目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	SDGs探究	2	2				専攻外	
	現代英語Ⅰ	2	2				専攻外	
選択	日本文化論	2	2				専攻外	
	現代英語Ⅱ	2		2			専攻外	
	現代英語Ⅲ	2			2		専攻外	
	グローバル研修	1	(1)					専攻外
開設単位計		11	8(1)		2(1)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

生産情報システム工学コース(電気電子工学) 専門関連科目

必修 選択 の別	授業科目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	システムデザイン	2	2				関連	
	生産管理論	2	2				関連	
	産業財産権	2	2				関連	
	応用解析学	2	2				関連	
	産業技術論	2		2			関連	
	製品開発論	2				2	関連	
	産業安全工学総論	2				2	関連 復興人材育成特別科目	
選択	力学総論	2	2				関連	
	現代化学	2	2				関連	
	環境保全工学	2	2				関連 復興人材育成特別科目	
	科学技術史	2			2		関連	
	材料科学	2			2		関連	
	減災工学	2			2		関連 復興人材育成特別科目	
	応用塑性加工学	2			2		関連	
	応用メカトロニクス	2			2		関連 復興人材育成特別科目	
	都市経済学	2				2	専攻外 復興人材育成特別科目	
	システム論	2				2	関連	
熱流体工学	2				2	関連		
開設単位計		36	16		20			

生産情報システム工学コース(電気電子工学) 専門科目

必修 選択 の別	授業科目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	特別研究Ⅰ	6	6				専門	
	特別研究Ⅱ	10			10		専門	
	応用電子制御工学	2	2				専門	
	数理計画論	2		2			専門	
	情報科学論	2		2			専門	
	インターンシップA	2	(2)					関連
選択	品質工学	2	2				関連	
	産業応用情報工学	2			2		専門	
	制御システム工学	2			2		専門	
	電子物性工学	2				2	専門	
	応用電磁気学	2				2	専門	
	応用半導体工学	2				2	専門	
	電力流通工学	2				2	専門 復興人材育成特別科目	
	インターンシップB	2	(2)					関連
インターンシップC	2	(2)					関連	
開設単位計		42	14(6)		22(6)			
開設単位合計		89	38(7)		44(7)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

エネルギーシステム工学コース(機械工学) 一般科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	SDGs探究	2	2				専攻外	
	現代英語Ⅰ	2	2				専攻外	
選択	日本文化論	2	2				専攻外	
	現代英語Ⅱ	2		2			専攻外	
	現代英語Ⅲ	2			2		専攻外	
	グローバル研修	1	(1)				専攻外	
開設単位計		11	8(1)		2(1)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

エネルギーシステム工学コース(機械工学) 専門関連科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	システムデザイン	2	2				専門	
	エネルギー変換工学	2	2				関連	
	産業財産権	2	2				関連	
	応用解析学	2	2				関連	
	産業技術論	2		2			関連	
	材料科学	2			2		関連	
	製品開発論	2				2	関連	
	産業安全工学総論	2				2	関連 復興人材育成特別科目	
選択	力学総論	2	2				関連	
	現代化学	2	2				関連	
	環境保全工学	2	2				関連 復興人材育成特別科目	
	応用電子制御工学	2	2				関連	
	数理計画論	2		2			関連	
	科学技術史	2			2		関連	
	減災工学	2			2		関連 復興人材育成特別科目	
	都市経済学	2				2	関連 復興人材育成特別科目	
	システム論	2				2	関連	
	電力流通工学	2				2	関連 復興人材育成特別科目	
	電子物性工学	2				2	関連	
	応用電磁気学	2				2	関連	
応用半導体工学	2				2	関連		
開設単位計		42	20		22			

エネルギーシステム工学コース(機械工学) 専門科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	特別研究Ⅰ	6	6				専門	
	特別研究Ⅱ	10			10		専門	
	生産管理論	2	2				専門	
	品質工学	2	2				専門	
	情報科学論	2		2			専門	
	応用メカトロニクス	2			2		専門 復興人材育成特別科目	
	制御システム工学	2			2		専門	
	産業応用情報工学	2			2		専門	
	応用塑性加工学	2			2		専門	
	熱流体工学	2				2	専門	
選択	インターンシップA	2	(2)				関連	
	インターンシップB	2	(2)				関連	
	インターンシップC	2	(2)				関連	
開設単位計		38	12(6)		20(6)			
開設単位合計		91	40(7)		44(7)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

エネルギーシステム工学コース(電気電子工学) 一般科目

必修 選択 の別	授業科目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	SDGs探究	2	2				専攻外	
	現代英語 I	2	2				専攻外	
選択	日本文化論	2	2				専攻外	
	現代英語 II	2		2			専攻外	
	現代英語 III	2			2		専攻外	
	グローバル研修	1	(1)				専攻外	
開設単位計		11	8(1)		2(1)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

エネルギーシステム工学コース(電気電子工学) 専門関連科目

必修 選択 の別	授業科目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	システムデザイン	2	2				関連	
	エネルギー変換工学	2	2				関連	
	生産管理論	2	2				関連	
	産業財産権	2	2				関連	
	応用解析学	2	2				関連	
	産業技術論	2		2			関連	
	製品開発論	2				2	関連	
産業安全工学総論	2				2	関連	復興人材育成特別科目	
選択	力学総論	2	2				関連	
	現代化学	2	2				関連	
	環境保全工学	2	2				関連	復興人材育成特別科目
	科学技術史	2			2		関連	
	材料科学	2			2		関連	
	減災工学	2			2		関連	復興人材育成特別科目
	応用塑性加工学	2			2		関連	
	応用メカトロニクス	2			2		関連	復興人材育成特別科目
	都市経済学	2				2	専攻外	復興人材育成特別科目
	システム論	2				2	関連	
熱流体工学	2				2	関連		
開設単位計		38	18		20			

エネルギーシステム工学コース(電気電子工学) 専門科目

必修 選択 の別	授業科目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	特別研究 I	6	6				専門	
	特別研究 II	10			10		専門	
	応用電子制御工学	2	2				専門	
	数理計画論	2		2			専門	
	情報科学論	2		2			専門	
	インターンシップA	2	(2)				関連	
選択	品質工学	2	2				専門	
	産業応用情報工学	2			2		専門	
	制御システム工学	2			2		専門	
	電子物性工学	2				2	専門	
	応用電磁気学	2				2	専門	
	応用半導体工学	2				2	専門	
	電力流通工学	2				2	専門	復興人材育成特別科目
	インターンシップB	2	(2)				関連	
インターンシップC	2	(2)				関連		
開設単位計		42	14(6)		22(6)			
開設単位合計		91	40(7)		44(7)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

化学・バイオ工学コース 一般科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	SDGs探究	2	2				専攻外	
	現代英語Ⅰ	2	2				専攻外	
選択	日本文化論	2	2				専攻外	
	現代英語Ⅱ	2		2			専攻外	
	現代英語Ⅲ	2			2		専攻外	
	グローバル研修	1	(1)				専攻外	
開設単位計		11	8(1)		2(1)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

化学・バイオ工学コース 専門関連科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	システムデザイン	2	2				専門	
	生産管理論	2	2				関連	
	産業財産権	2	2				関連	
	応用解析学	2	2				関連	
	産業技術論	2		2			関連	
	材料科学	2			2		関連	
	製品開発論	2				2	関連	
	産業安全工学総論	2				2	関連 復興人材育成特別科目	
選択	力学総論	2	2				関連	
	現代化学	2	2				関連	
	環境保全工学	2	2				関連 復興人材育成特別科目	
	情報科学論	2		2			関連	
	数理計画論	2		2			関連	
	科学技術史	2			2		関連	
	応用メカトロニクス	2			2		関連 復興人材育成特別科目	
	減災工学	2			2		関連 復興人材育成特別科目	
	都市経済学	2				2	関連 復興人材育成特別科目	
	システム論	2				2	関連	
電力流通工学	2				2	関連 復興人材育成特別科目		
開設単位計		38	20		18			

化学・バイオ工学コース 専門科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	特別研究Ⅰ	6	6				専門	
	特別研究Ⅱ	10			10		専門	
	物質プロセス化学	2	2				専門	
	応用材料化学	2			2		専門	
	生体分子機能工学	2				2	専門	
	材料科学	2			2		専門	
	インターンシップ A	2	(2)				関連	
選択必修	応用合成化学	2			2		専門	
	構造物理化学	2			2		専門	
	応用有機化学	2			2		専門	
	現代分析化学	2			2		専門	
選択	インターンシップ B	2	(2)				関連	
	インターンシップ C	2	(2)				関連	
開設単位計		38	8(6)		24(6)			
開設単位合計		87	36(7)		44(7)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

社会環境システム工学コース 一般科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	SDGs探究	2	2				専攻外	
	現代英語 I	2	2				専攻外	
選択	日本文化論	2	2				専攻外	
	現代英語 II	2		2			専攻外	
	現代英語 III	2			2		専攻外	
	グローバル研修	1	(1)				専攻外	
開設単位計		11	8(1)		2(1)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

社会環境システム工学コース 専門関連科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	システムデザイン	2	2				専門	
	生産管理論	2	2				関連	
	産業財産権	2	2				関連	
	応用解析学	2	2				関連	
	産業技術論	2		2			関連	
	材料科学	2			2		関連	
	製品開発論	2				2	関連	
	産業安全工学総論	2				2	関連 復興人材育成特別科目	
選択	力学総論	2	2				関連	
	現代化学	2	2				関連	
	情報科学論	2		2			関連	
	科学技術史	2			2		関連	
	材料科学	2			2		関連	
	応用メカトロニクス	2			2		関連 復興人材育成特別科目	
	都市経済学	2				2	関連 復興人材育成特別科目	
	システム論	2				2	関連	
	電力流通工学	2				2	関連 復興人材育成特別科目	
開設単位計		34	16		18			

社会環境システム工学コース 専門科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	特別研究 I	6	6				専門	
	特別研究 II	10			10		専門	
	環境保全工学	2	2				専門 復興人材育成特別科目	
	構造解析論	2	2				専門	
	数理計画論	2		2			専門	
	水工学	2			2		専門	
	減災工学	2			2		専門 復興人材育成特別科目	
	地盤工学特論	2			2		専門	
	維持・管理工学	2				2	専門	
	水環境工学	2				2	専門	
選択	インターンシップ A	2	(2)				関連	
	インターンシップ B	2	(2)				関連	
	インターンシップ C	2	(2)				関連	
開設単位計		38	12(6)		20(6)			
開設単位合計		83	36(7)		40(7)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

ビジネスコミュニケーション学コース 一般科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
選択必修	現代英語Ⅰ	2	2				専攻外	2科目以上修得すること
	現代英語Ⅱ	2		2			専攻外	
	現代英語Ⅲ	2			2		専攻外	
選択	SDGs探究	2	2				専攻外	
	日本文化論	2	2				専攻外	
	グローバル研修	1	(1)				専攻外	
開設単位計		11	8(1)		2(1)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

ビジネスコミュニケーション学コース 専門関連科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	システムデザイン	2	2				専門	
	産業財産権	2	2				関連	
	産業技術論	2		2			関連	
	経済産業論	2			2		関連	復興人材育成特別科目
	製品開発論	2				2	関連	
	都市経済学	2				2	関連	復興人材育成特別科目
選択	環境保全工学	2	2				専攻外	復興人材育成特別科目
	現代化学	2	2				専攻外	
	科学技術史	2			2		専攻外	
	ビジネス英語	2				2	専攻外	
	減災工学	2			2		専攻外	復興人材育成特別科目
	産業安全工学総論	2				2	専攻外	復興人材育成特別科目
開設単位計		24	10		14			

ビジネスコミュニケーション学コース 専門科目

必修 選択 の別	授 業 科 目	単位数	学年別配当(時間数)				特例 申請	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
必修	特別研究Ⅰ	6	6				専門	
	特別研究Ⅱ	8			8		専門	
	経営学演習	2	2				専門	
	新事業開発	2	2				専門	
	生産管理論	2	2				専門	
	データ分析論	2	2				専門	
	財務諸表論	2	2				専門	
	広告メディア論	2	2				専門	
	経営管理論	2		2			専門	
	グローバル経営論	2			2		専門	
	経営分析論	2				2	専門	
	製品開発論	2				2	専門	
	インターンシップA	2	(2)				関連	
選択	情報科学論	2				2	専門	
	システム論	2				2	専門	
	インターンシップB	2	(2)				関連	
	インターンシップC	2	(2)				関連	
開設単位計		44	20(6)		18(6)			
開設単位合計		79	38(7)		34(7)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

## 8 専攻科の入学及び進路状況

### (1) 専攻科の入学定員等

専攻科の各専攻の入学定員及び対応する準学士課程(基礎となる学科)は次のとおりです。

専 攻 科		準学士課程(基礎となる学科)	
専 攻 名	入学定員	学 科 名	入学定員
産業技術システム工学専攻	16人	機械システム工学科	40人
		電気電子システム工学科	40人
		化学・バイオ工学科	40人
		都市システム工学科	40人
ビジネスコミュニケーション学専攻	4人	ビジネスコミュニケーション学科	40人
計	20人	計	200人

### (2) 修了後の進路(平成30年3月以降)

#### ①大学院への進学先等

山形大学大学院 東北大学大学院 東北大学会計大学院 福島大学大学院 茨城大学大学院  
 宇都宮大学大学院 東京工業大学大学院 横浜国立大学大学院 新潟大学大学院 長岡技術科学  
 大学大学院 京都大学大学院 京都工芸繊維大学大学院 北陸先端科学技術大学院大学 高知大  
 学大学院 山口大学大学院 首都大学東京大学院 慶應義塾大学大学院

#### ②主な就職先等

あすか製薬(株) (株)富士通エフサス (株)ナカニシ (株)クレハ 古河電池  
 三菱重工業(株) 富士通クラウドテクノロジーズ(株) (株)ウェディングパーク  
 富士電機(株) オムロンフィールドエンジニアリング(株) JX 金属(株)  
 東京電力ホールディングス(株) 三菱ガス化学(株) 東急電鉄(株) (株)日水コン  
 (株)東コンサルタント エアポートメンテナンスサービス(株) (株)建設技術研究所  
 東京水道(株) 応用地質(株) アルプスアルパイン(株) ADK 富士システム(株)  
 (有)栗林会計事務所 日本スキー場開発(株) いわき市役所  
 (国研)日本原子力研究開発機構 浜松市役所

## 9 入学時に必要な諸経費(予定)

種 別	金 額	備 考
入 学 料	84,600円	入学手続き時に納入する。
授 業 料	117,300円	年額234,600円を2期に分けて納入する。(在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。)一括納入もできます。
教科書代	未 定	各専攻により別途指定します。
学生会費	8,500円	本校本科以外からの入学者は、入会金 1,000 円が別途必要になります。
後援会費	6,000円	本校本科以外からの入学者は、入会金 10,000 円が別途必要になります。

## 10 入学料・授業料の免除

### (1) 入学料免除

入学前1年以内に学資負担者が死亡し、または風水害などの災害を受け、入学料納付が非常に困難であるなどの場合は、入学料が免除される制度があります。

### (2) 授業料免除

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業成績が優秀と認められる場合、その他やむを得ない事情があると認められる場合は、授業料全額または半額が免除される制度があります。

## 11 奨学金制度

独立行政法人日本学生支援機構の規定に基づき、学業、人物ともに優れ、かつ健康であって、授業料の納付が困難であると認められる者に対し、本人の申請に基づき、選考の上、日本学生支援機構から奨学金が貸与される制度があります。

## 12 復興人材育成特別プログラム

福島高専専攻科では、文部科学省の平成23年度「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」に採択されたことを受け、平成25年4月から再生可能エネルギー、原子力安全、減災工学の3分野において地域復興に必要な教育を実施するため、復興人材育成特別コースを開設しました。

平成27年度から専攻科改組に伴い、「復興人材育成特別コース」は「復興人材育成特別プログラム」となり、上記3分野における地域復興に必要な教育は継続して行われます。

復興人材育成特別プログラムはどの専攻からでも選択することができます。

入学後はそれぞれの専攻、コースに所属し、専門の復興関連科目を履修することになります。

## 〔出 願 書 類〕

- 1 専攻科入学願書
- 2 写真票・受験票
- 3 推薦書（推薦選抜用）
- 4 承諾書（社会人特別選抜用）
- 5 調査書
- 6 専攻科志望調査書（推薦選抜用・学力選抜用・社会人特別選抜用）

# 令和5年度 専攻科 入学願書

福島工業高等専門学校

志望専攻		専攻	受験番号	※
試験科目 (専門) 選択 (番号を記入し てください)		産業技術システム工学専攻 (2科目)	ビジネスコミュニケーション学専攻 (1科目)	
志	ふりがな 氏名	男 女	生年月日 平成 年 月 日生	
	ふりがな 現住所	〒 - 電話番号 ( ) -		
願	出身	高等専門学校 学科 短期大学 科 専修学校 科 平成・令和 年 月 卒業・卒業見込み・修了・修了見込み		
	学校	〒 - 所在地 電話番号 ( ) -		
者	学歴	自 平成・令和 年 月 日		
		至 平成・令和 年 月 日		
	職歴	自 平成・令和 年 月 日		
		至 平成・令和 年 月 日		
		自 平成・令和 年 月 日		
		至 平成・令和 年 月 日		
勤務先	名称 (部課まで)			
	所在地	〒 - 電話番号 ( ) -		
合格通知等 を受ける場所		〒 - 所在地 電話番号 ( ) -		

〔記入上の注意〕

1. 黒又は青のボールペンで記入してください。
2. ※印欄は記入しないでください。
3. 「性別」, 「元号」, 「卒業・卒業見込み」, 「修了・修了見込み」欄は, 該当する文字を○で囲んでください。
4. 学歴及び職歴欄は, 高等専門学校又は高等学校卒業から記入してください。
5. 勤務先欄は, 企業等に在職のまま入学を希望する方のみ記入してください。

令和5年度 専攻科入学

写 真 票

福島工業高等専門学校

受験番号	※	
志望専攻	専攻	
ふりがな 氏 名		男・女
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"><p>写真貼付</p><p>タテ 4.5 cm ヨコ 3.5 cm</p><p>最近3カ月以内に上半身、脱帽、正面向きで撮影したものを貼ってください。</p></div>		

※印欄は、記入しないでください。

令和5年度 専攻科入学

受 験 票

福島工業高等専門学校

受験番号	※	
志望専攻	専攻	
ふりがな 氏 名		男・女
試験日時 令和 年 月 日( ) 時 分		
試験場所 福島工業高等専門学校		
<ul style="list-style-type: none"><li>試験当日は、8時40分までに受付を済ませてください。</li><li>本票は試験が終了するまで必ず携帯してください。</li><li>本票を忘れたとき又は紛失したときは直ちに検査本部へ届け出て指示を受けてください。</li></ul>		

※印欄は、記入しないでください。

ま  
り  
は  
な  
さ  
な  
い  
で  
く  
だ  
さ  
い

受験番号	※
------	---

## 推 薦 書

令和 年 月 日

福島工業高等専門学校長 殿

学 校 名

学校長氏名

印

下記の者は、学業成績、人物ともに優秀であり、貴校専攻科入学者としてふさわしい  
資質を持つ者と認め推薦します。

記

志望専攻			
ふりがな 氏 名	男・ 女	所 属 科	学 科
		生年月日	平成 年 月 日生
推 薦 理 由			
そ の 他 参 考 事 項			

※印欄は、記入しないでください。

受験番号

※

# 承 諾 書

令和 年 月 日

福島工業高等専門学校長 殿

所 在 地

企 業 等 名

所 属 長

印

下記の者が、貴校専攻科社会人特別選抜へ出願することを承諾します。

記

志 望 専 攻 名 \_\_\_\_\_

出 願 者 氏 名 \_\_\_\_\_

生 年 月 日 昭和・平成 年 月 日生 \_\_\_\_\_

所 属 部 ・ 課 ・ 係 \_\_\_\_\_

在 職 期 間 平成・令和 年 月 日～ \_\_\_\_\_

※印欄は、記入しないでください。

# 調 査 書

志望専攻	専攻			受験番号	※	
ふりがな 氏名 生年月日				男・女	学 校 学科名	
	平成 年 月 日生					国立 公立 私立
平成 年 月 日 入学 編入学 転入学			平成 ・ 令和 年 月 日		卒業・卒業見込 修了・修了見込	
成績証明書	出身学校所定の用紙を使用し、当該学校長(学長)が作成したものを添付の上厳封すること。修得単位数が明記されているもの。(成績の評定基準を右表に明示すること。)			評 定 基 準	評定の区分	点数の範囲
						点 ~ 点
						点 ~ 点
						点 ~ 点
						点 ~ 点
学科内席次	1年	人中 位 ( 点)	4年	人中 位 ( 点)		
	2年	人中 位 ( 点)	5年	人中 位 ( 点)		
	3年	人中 位 ( 点)				
卒業研究題目						
卒業研究要旨						
在学中の状況						
<p>上記の通り相違ないことを証明する。</p> <p style="margin-left: 100px;">令和 年 月 日</p> <p style="margin-left: 300px;">学 校 名 校長・学長氏名</p> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">印</p>						

記入上の注意

1. ※印欄は、記入しないでください。
2. 学科内席次欄の括弧内には、学年末成績一覧表における当該受験生の平均点を記入してください。
3. 在学中の状況欄は、人物・課外活動・生活態度等を記入してください。

推薦選抜用  
学力選抜用  
社会人特別選抜用

# 専攻科志望調査書

福島工業高等専門学校

志望専攻	専攻	受験番号	※
ふりがな 氏名	男・女	生年月日 平成 年 月 日生	
専攻科を志望する理由			
専攻科で特に学修・研究を希望する分野と内容			
専攻科修了後の進路に対する抱負			

## 記入上の注意

黒又は青ボールペンで記入してください。

専攻科のアドミッションポリシーにも関連付けて記載してください。

※印欄は記入しないでください。

令和5年度 福島工業高等専門学校検定料納入書

(高専提出用)

SE		金融機関領収印	
住所	〒	<div style="text-align: center;">  <p>1 3ヶ所押印</p> </div>	
	電話 - -		
フリガナ 氏名			
		¥16,500	

※裏面にある「納入上の注意」をよく読んで手続きをしてください。

受験番号

SE

切り取らずに窓口にお出してください

令和5年度 福島工業高等専門学校検定料振込金(兼手数料)受取書

(本人保管用領収書)

SE		金融機関領収印	
フリガナ 氏名		左記の金額受け取りました	
	様	<div style="text-align: center;">  <p>2 3ヶ所押印</p> </div>	
振込先銀行	東邦銀行 いわき営業部 普通預金 2325328		
口座名	独立行政法人国立高等専門学校機構本部 出納命令役事務局長 大内あづさ		
	金額	¥16,500	
	手数料	円	

切り取らずに窓口にお出してください

振込依頼書

電信扱

※取扱金融機関へお願い  
必ず打電してください。  
氏名の前に記号を

依頼日	年 月 日	振込指定	電信扱	手数料						円
受取人	振込先銀行	東邦銀行 いわき営業部	金額	現金						¥16500
		普通預金								
口座名		コウセンキコウホンブ	内訳	当店券						
		独立行政法人国立高等専門学校機構本部 出納命令役事務局長 大内あづさ		他店券						
ご依頼人	記号	受験者氏名(カタカナ)	◎振込手数料はご依頼人負担となります。							
	SE		収納印または振替印		<div style="text-align: center;">  <p>3 3ヶ所押印</p> </div>					
		受験者氏名(漢字)								
住所	〒									
		電話 - -								

## 納入上の注意

1. 太枠内をペンまたはボールペンで記入してください。
2. 金融機関の窓口へ持参し振り込んでください。ATM（現金自動預支払機）、携帯電話及びパソコン等からの振り込みはできませんので、ご注意ください。
3. 振込手数料が別途必要ですのでご負担願います。
4. 「納入書」と「振込金(兼手数料)受取書」は、金融機関領収印があることを確認の上受け取ってください。
5. 検定料を払い込んだが出願しなかった(出願書類を提出しなかった又は出願が受理されなかった)場合、もしくは誤って二重に振り込んだ場合は検定料の返還請求ができますので、下記に申し出てください。

検定料返還に関する問合せ先  
総務課財務係（電話 0246-46-0716）